

## トラムとの連動が都市公共空間の上質化に与える影響に関する研究

A study of Urban Public Space Enrichment with the Link of Tram Project

ペリー 史子（PERRY Fumiko）

新しいタイプの路面公共交通機関であるトラムの整備が進んでいる欧州諸都市では、トラム整備と連動してトラム軌道の周囲に多様なタイプの都市公共空間が生み出されている。そこにはトラム整備を単なる交通機関整備に留まらせず、交通利便性の向上にプラスした大きな付加価値がつけられていると考えられる。そのデザインは都市公共空間そのものにも心地よさもたらし、都市に新たなメッセージ性のある魅力的な風景をもたらしているのである。都市公共空間は路面公共交通であるトラムと連動することによって都市を、歩くのが楽しく気持ち良い、散策し休憩しながら時間を過ごしたくないような空間へと変容させ、上質な空間へと導いているものと考えられる。

そこで本研究では、都市公共空間の上質化に寄与する要因を導き出すための基礎的研究として、トラムが整備されている欧州と日本の複数都市を対象として都市構想等の中でのトラムの位置づけを抽出し、空間デザインの特徴を分析することとする。

空間デザインの分析結果は、次のようにまとめられる。

- ・欧州の事例として取り上げたフランスのブレスト市、トゥール市では、トラムプロジェクト自体が、軌道・歩道を中心に沿線建物の正面から向かい側の建物正面までという都市空間を対象として一体的にデザインされていたり、車体から停留所、そして都市へと広がるコンセプトに基づいて都市と一体的にデザインされていたりする。一方、日本の事例では、そのように都市公共空間を含めたものは見当たらなかった。
- ・欧州諸都市ではトラム軌道に沿って、統一的なデザインの停留所が繰り返し配置され一つの都市風景のリズムを構成し、また、その停留所デザインに地域の特徴が反映されていることが多いが、日本では都市風景に中でのそのようなリズムは見当たらなかった。
- ・都市公共空間の魅力や都市風景の構築に直接関わり、トラムと歩行者との接点となる停留所に着目すると、そのデザインには、都市や年代によって、都市風景との関わりに大きく差があることが見出された。
- ・停留所のデザイン自体が影響を及ぼす範囲を分類すると、停留所エリアの留まるもの、停留所周辺エリアに及ぶもの、路線沿線エリアに広がっていくもの、都市レベルに関わっていくものの4つに大きく分けることができた。
- ・時代によって変容する停留所デザインについてその特徴を時系列的に考察すると、その変遷は4つのステージに大別でき、時代とともに、地域シンボルタイプ、ダイナミックシンボルタイプ、街並み演出タイプ、都市一体化タイプへと展開してきていることが明らかになった。

なお、研究成果の一部は、「都市景観構成要素としての LRT 停留所デザインの特徴に関する時系列的考察 -欧州 33 都市での現地実態調査に基づいて-」（都市計画論文集（審査付き論文）Vo1.52 No3, 2017 年 10 月刊行）にまとめられている。